

「論文作成」のための特別講座 練習問題 1 4

次の資料をよく読んで、印象に残ったところをあげて、あなたが考えることを500字以上、600字以内で作文しなさい。ただし、作文には、「共に生きる」、「障害」、「学ぶ」の3つの言葉を必ず使用すること。

【資料】

『心』の存在する場所

静岡県静岡市立東中学校三年

秋本 伽菜

「シッ、見てはダメよ！」

信号が青に変わり、交差点を渡り出した私の背後から、子供をたしなめる母親の声が聞こえてきました。そして、前方からは白い杖をついた女性^{つえ}が歩いて来るのが見えました。その瞬間、私はとても腹立たしい感情^{おぼ}を覚えました。何故か嫌な気分になったのです。どうして「目が不自由だから、杖で足元を確かめているのよ。」と、普通に教えてあげないのだろう。これでは、子供は何かタブー^{はくじょう}に触れたと思って、白杖を持った人と距離を置くようになってしまう。この母親は子供に、障害者は見てはいけない存在、または哀れみの対象なのだと、間違った知識^{あわ}を植えつけてしまっているのではないか。私は怒りさえ感じました。そして、その時私は、四年前に出会った大切な友達のことを思い出しました。

私が小学五年生の時、同じ地域にある聾^{ろう}学校から二週間だけのクラスメイトとして、一人の女の子がやって来ました。彼女は、両耳が聴こえません。私は、彼女が早くみんなと友達になれるように、そして二週間楽しく毎日を過ごせるようにと、ずっと彼女のそばについてたくさん話をするようにしました。とは言っても、実際どうやってコミュニケーションをとったらよいか分かりませんでした。二週間しか友達でいられないのに……。焦^{あせ}った私は図書館で手話の本を借り、徹夜^{てつや}で覚えました。そして次の日、彼女と話ができるのを楽しみに学校に行ったのですが一。彼女は、私の手話に答えてはくれず、まだ一度も笑った顔を見せてはくれません。そんな中、水泳の授業でクラス対抗リレーが開かれました。そこに、彼女の姿がありました。一部の生徒によって、からかい半分で選ばれたのです。しかし彼女はクラス代表の役を降りず、懸命に自分のコースを泳ぎました。その泳ぎ方がぎこちないと、プー

ルサイドの生徒たちは笑い、野次^{やじ}りました。その日、熱が少しあって洋服で見学していた私は、もう居ても立ってもいられず、プールに飛び込みました。そして、懸命に泳ぐ彼女のそばで「頑張れ、頑張れ！」と声援を送り続けました。すると見事彼女は最後まで泳ぎきって、次の人へとリレーを繋^{つな}いだのです。そして、まだ苦しそうな息遣^{いきづか}いの彼女は、「ありがとう。」と、手話で私に伝えてくれたのです。優しい笑顔と共に。プールサイドからは、大拍手が起きました。

でも正直私は、プールに飛び込む寸前^{すんぜん}、自分の中で小さな葛藤^{かつとう}がありました。それは、私が自分の思いのまま行動することによって、逆にみんなから「格好^{かつこう}つけるな。」と、非難を受けるのではないかという憶病^{おくびょう}な考えです。しかし私は、どうしても我慢^{がまん}できませんでした。たとえ彼女の耳に、心ない野次が聴こえていないとしても、好奇心の目に晒^{さら}されて泳いでいる彼女を黙って見ているには胸が苦し過ぎたのです。そして、心の中の動きようのない小さな点をしっかりと握^{にぎ}り締^しめた私は、迷^{まよ}うことなくプールに飛び込んだのです。

『心』って、どこに存在すると思いますか。それは、人と人との間にあるのではないのでしょうか。人が『心』と感じるものは自分の中にあるものではなくて、誰かのことを思った時に、その人との間に生まれるのだと思うのです。彼女が、そう私に教えてくれたのです。

街中^{まちなか}で障害をもつ人を見かけたら、一瞬、その人のことを思ってみて下さい。そんな一つ一つの瞬間が、社会を変えていく一歩になり、お互いの心を豊かにしてくれるきっかけにもなるのだと思うのです。心に光を灯^{とも}された経験は誰にでもあるはずです。人の心に光を灯す。それは自分の心に光を灯すことでもあるのだと、私は思います。

そして、私はこれから、もっと心の網を細かくして、きらきら光る大切なものを見失^{すく}わないように掬^{すく}い取っていこうと思います。

私は右耳が聴こえません。彼女にはどうしても言えませんでした。だって、私の左耳は聴こえるのですから …。

※ 葛藤 **かつとう**

もつれ。悶着（もんちゃく）。あらそい。▽葛（かずら）や藤（ふじ）の枝が、もつれからむことからいう。

原典：内閣府「心の輪を広げる体験作文入賞作品」平成24年度入賞作品集 pp. 18-19より

原典には、読みがなはない。学習のために倉橋が読みがなを付けた。

「論文作成」のための特別講座 練習問題 1 4 解説

資料読み取り型の作文問題である。資料の中からメッセージを読み取って、そのメッセージ(問題提起)に対して、自分の意見を説明することが求められている作文問題である。

ただし、作文には、「共に生きる」、「障害」、「学ぶ」の3つの言葉を必ず使用することが求められている。

書き方の公式は、標準的な「資料読みとり型小論文」の構成(段落構成)を使えばよい。

第1段 資料文からの「引用」

第2段 「問題提起」＋「判断」

第3段 「根拠」

「答案」を書くテクニック

第1段の「引用」の場面で、論じる対象を明確に示えること。たとえ、長文でもかまわないので、正確に文を写すことが基本である(勝手に省略したり、言い換ええないこと)。

そして、とりあげた段落のメッセージについて「自分はどうか受け止めるのか」を書くことが大切である。

第2段で、「問題提起」として、自分は障害者に対してどんなイメージを持っていたのかを説明すること。そのイメージが『心』の存在する場所」の作者の思いとどのように違ったのか。あるいは、自分の経験と同じように感じ取ることが出来たのか。『心』の存在する場所」を読んで自分の生き方や、障害者に対する意識について新たに感じたことを説明する。

次に、これから自分がしなければならないとか、したいことを「共に生きる」や「障害」との関係で自分の思いを書くことが大切である。

第3段では、「共に生きる」ために、自分が今後に取り組むべき方法を具体的に説明すること。その際、今の自分でできることと、将来身につけたい力量・知識・技術との間の距離を説明し、自分の「学ぶ」課題を明らかにできれば高い評価が与えられるであろう。

※ 採点基準

個人の「人生感」を採点することはできない。したがって、何を生き甲斐と感じるかなどの内容そのものを採点対象にはしない。

しかし、「課題設定力」と「表現力」及び「論理力」は、採点対象とすることができる。この問題の採点基準は、10点満点として考えると次のような配点になる。

① 「『心』の存在する場所」が伝えるメッセージ(障害を克服する戦いの厳しさ、支援してくれる人への感謝、共に生きたいという願い)を説明している。(2点)

② 障害者と周囲の人達とのつながりについて、『心』の存在する場所」を読む前と読んだ後での自分の考え方の変化などについて具体的に書いている。(2点)

③ 自分の克服すべき課題を、「共に生きる」「学ぶ」を使って説明している。(2点)

以上の①～③を書いていることと、指定の文字数で書いていることが最低条件である。

次に、加点対象として、

④ 自分の目指す「共に生きる」方法について具体性がある。(2点)

⑤ キーワード(生き甲斐、社会参加など)を効果的に使用して、説明している。(2点)

これら以外に、論理矛盾は、減点対象とされるので要注意である。